日刊 動労千葉
81.8.19
No. 824
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二ー八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

勝利の7月総決起を引き継ぎ

動労千葉破壊攻撃粉砕。「本部」反動分子解体・一掃へ

第17回支部代表者会議

第十七回支部代表者会議が八月十八日、一四時すぎより、動力車会館で開催された。会議は、まず本部側より、動労「本部」反動分子のデッチ上げ告訴・告発ー権力の六名の仲間の不当逮捕ー動労千葉破壊・解体攻撃に対し、六名の完黙・非転向の闘いと津田沼支部を先頭とする一三〇〇組合員の総決起の闘いをもって、これをはねのけ勝利してきた経過と核心点が提起された。そして、この七月総決起の勝利を引き継ぎ、①〃全員が活動家となって〃「本部」反動分子・土屋一派解体・一掃、動労大改革　②「本部」の「職場規律の厳正」要求をテコとした当局の新マル生攻撃粉砕、国鉄35体制粉砕　③支援基金の組合員一人一口獲得運動の展開ー闘う支援・連帯の強化・拡大　④第六回動労千葉定期大会の成功、など今後の闘いの方向と具体的取り組みについて確認・決定した。

「本部」の告訴を〃絶好のチャンス〃として、動労千葉破壊を狙った権力

「本部」反動分子による動労千葉組合員十名の告訴・告発を〃動労千葉つぶしの絶好のチャンス〃として権力は、七月十五日、片岡津田沼支部長以下六名の仲間を不当逮捕・勾留し、自白・転向・屈服を強要してきた。

この攻撃こそは、労働運動の右傾化ー屈服がますます進む中で、81・3ジェット延長阻止五日間ストライキを闘いぬいたわが動労千葉に対する階級的報復をかけた弾圧攻撃であったのである。このことは、不当逮捕された六名の仲間に対する権力の取り調べ・追及の焦点が「動労千葉を脱退しろ」「組合役員をやめろ」などであったことからも明らかである。

敵の狙いを粉砕した七月総決起の闘い

動労「本部」ー権力の一体となった、かつてない悪らつな動労千葉破壊・解体攻撃に対し、われわれは、七月総決起の闘いの高揚をもって敵の狙いを粉砕した。

この闘いの勝利の核心の才一は、不当逮捕された六名の仲間が十七日間に及ぶ獄中闘争を完全黙秘・非転向で貫きとおしたことである。権力は、十名の告訴を受け、まず六名を逮捕・勾留し、自白・転向の強要をもって、さらに逮捕者・起訴者を拡大し、わが動労千葉をぐずぐずに解体せんとしてきたのである。しかし、六名の仲間は、動労千葉の闘いに誇りと確信を持ち、仲間を信じ、転び屋＝革マル分子・嶋田誠に対する怒りと憎しみを燃やし、権力の連日の長時間にわたる自白・転向強要を粉砕し、完全黙秘・非転向を貫き、動労千葉の労働者魂をいかんなく発揮し、権力および「本部」革マル反動分子に大打撃を与えたのである。われわれは、最も基本的な点で、敵のもくろみをうちくだき勝利した。

勝利の核心の才二は、津田沼支部一四二名組合員が文字通り総決起の闘いを貫徹したことである。

六名の中心的活動家を権力に奪われた津田沼支部は、「全員が活動家になろう」を合言葉に七月十二日以降、約二十日間にわたるろう城体制といかなる不当弾圧をものりこえて進む第二、第三の支部執行部を確立して、連日の闘いに決起した。

勝利の核心の才三は、この六名の仲間の完黙・非転向の闘いと津田沼支部の連日の闘いを先頭に、不当逮捕（七月十五日）から完黙全員奪還（七月三十一日）に至る十七日間にのべ一五〇〇名を越える動員実績に見られるように、動労千葉一三〇〇組合員の総決起がかちとられたことである。

しかし、「本部」反動分子は、今日、こともあろうに、国鉄当局に「ただちに六名全員を解雇処分にしてくれ」などと泣きつき、要求しているのである。何という醜悪な権力・当局の手先き、鉄労以下の卑劣なマル生集団であることか！

全ての組合員のみなさん、

偉大な七月総決起をかちとった力で、権力ー国鉄当局ー「本部」反動分子一体となった動労千葉破壊攻撃を絶対に許さず、逆に、ますますその反動性・反労働者性をむき出しに敵対と破産を深める「本部」革マル反動分子と土屋一派を解体・一掃し、動労大改革へむかって前進しよう。

当面の具体的取り組みについて

（一）35体制粉砕ー「56・10」に対する取り組みを強化する。

（二）支援基金運動の一人一口獲得運動を展開する。

（三）「本部」派・土屋一派解体闘争を一層強化する。

（四）動労千葉第六回定期大会の圧倒的成功をかちとる。

（以上）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！